

一瞬わが眼を疑った。思いもよらない古い木彫り仏。埼玉県東南部の低地帯にあるとは・・・！

シビック・プライド越谷新聞

第 5号 * 令和8年8月1日 * 旧日光街道・越谷宿を考える会 * 越谷のシビック・プライドを楽しむ会 * 発行

「優しいお顔」 * 「国の重要文化財」 * 「県内最古の仏像」



浄山寺地蔵尊の優しいお顔

この紙面の一行目は、越谷・野島^{のしま じょう さんじ}浄山寺のお地蔵さんを見られた時の林 宏一先生のご感想です。林先生は元・埼玉県立博物館（現・埼玉県立歴史と民俗の博物館）館長などをご歴任の仏教美術史の専門家。浄山寺の地蔵尊像は久

しく秘仏として、林先生ですらご覧になることができず、2011年（平成23）の東北大震災により、地蔵尊像を格納していた^{すし}厨子が倒れ、内部の尊像の脚部が破損し、お寺からのご依頼により、駆けつけられて、初めて尊像をご覧になったのです。**ご開帳 8月24日(月)！**

さあ！どうしましょう！ 何もないとか、言っていたきたくない<越谷>

だって、優しいお顔の、国の重要文化財の、県内最古の、「お地蔵様」を持っておられるところ～ございますか？ 京都、奈良をのぞけば、そんなところはないですよ！ 心やさしい越谷だから、今まで、何にもいいませんでした。が、さあ、これからは言わせていただこう！ 自慢させていただきましょう！

日本における古い地蔵像

日本の仏教は朝鮮半島から伝来したもので、飛鳥時代の伝来当初に、その中に地蔵信仰が入っていなかったようです。

奈良時代の「天平 19 年の光明皇后の願によりつくられた地蔵仏が東大寺にある」との文献などは 4 例残っていますが、地蔵仏そのものは残っていません。

いま伝えられる地蔵像は平安時代のものが一番古いことになります。

◎日本の地蔵菩薩像について

○9 世紀前半 ^{こうりゅうじ} 広隆寺講堂の地蔵像

☆現存最古の地蔵像 一木彫・体軀肥満・頭部横幅広く・鼻低く～

☆道晶が同寺の権律師であった時期＜^{じやうけん}貞観～10 年（864～868）＞

広隆寺再建の際、発願か



広隆寺講堂

○9 世紀後半 ^{にあら} 橘寺の日羅像 ^{ちやうでんじ} 三重県朝田寺の地蔵像 法隆寺金堂の地蔵像

☆橘寺の日羅像 日羅は聖徳太子の仏教の師 いつ頃からか日羅像とされた 温和な面相

☆朝田寺の地蔵像 鼻が低い 側面観も量感豊か 広隆寺像に比較的近い

☆法隆寺金堂の地蔵像 三輪山のふもとにあった^{だいごりんじ}大御輪寺にあったもの ^{しやうりんじ}聖林寺の十一面観音と同

じように～ 神秘的な面相をもつ広隆寺像より古いとは考えられない



橘寺の日羅像



朝田寺



法隆寺金堂

○10 世紀 興福寺の地蔵像 東寺の地蔵像

☆興福寺の地蔵像 体躯あり 目や口などの造作大きい 額と鼻梁が同じ高さ 衣文線は型通りで
生気なし

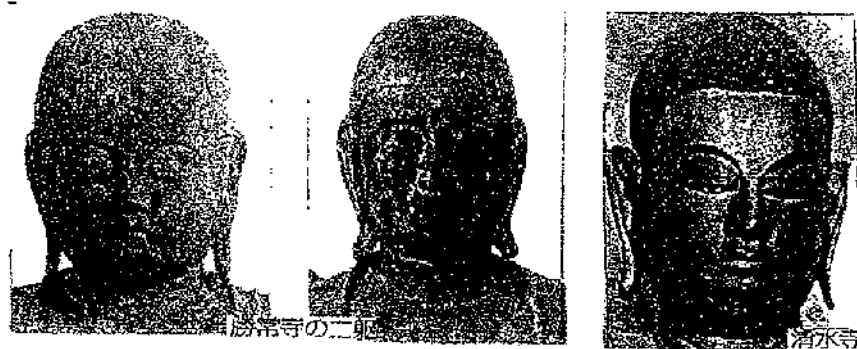
☆東寺の地蔵像 穏やかな菩薩顔



○東国の9世紀末～10世紀前半 福島県会津勝常寺しょうじょうじの地蔵像 長野県清水寺しみずじの地蔵像

☆勝常寺の二軀の地蔵像 とともに量感を失っていない

☆清水寺の地蔵像 両肩が張り、胸が厚く、面相も鼻と唇がせまり、平安初期彫刻共通の古様さを
とどめている



浄山寺のお地蔵さまの作られた時代は～

浄山寺の地蔵尊像は、はたして、いつ作られたのでしょうか。現在の専門家のご意見は次のとおりです。

○林 宏一氏 (H27.10.17 越谷市郷土研究会の講演会のレジュメの中で～)

「9世紀にさかのぼり、縁起に説く貞観2年(860)は一つの目安となる。」

○「月刊文化財 平成28年(2016)6月号 文化庁文化財部監修」の「新指定の文化財 文化庁文化財部執筆」より 「9世紀前半に遡る可能性が考えられる」

○林 宏一氏 (H28.5.30 刊 「仏教藝術」毎日新聞出版 より)

「9世紀後半は下らない頃の造像」

帰命頂礼地藏尊
物の哀れのその中に

西の河原の物がたり
身に心の堪えがたき
十より内の幼な子が
広き河原に集りて
父を尋ねて立まわり
母をこがれてなげきぬる
あまの心の悲しさに
石を集めて塔を組む
一重積んでは父をよび
二重積んでは母恋し
なにとてわれらが父母は
かかる河原に捨ておくぞ
なさけなき父うえや
母はいづくにましますぞ
あけくれいたわりました
乳房を与えたまえかし
一口のまば遊ぶべし
なげきをやめてなげくまじ
東に西にかけまわり
声をはりあげもだえても
親と答うる声もなし
しばし泣きおるありさまを
地藏菩薩の御覧じて
汝が親は娑婆にあり
今よりのちは我をみな
父とも母とも思ふべし
ふかくあわれみ給うゆえ
大悲の地藏にすがりつつ
われもわれもと集りて
なくなく眠るばかりなり

○一つ積んでは、二つ積んでは～の悲しい「さいのかわらじぞうわさん西院川原地蔵和讃」です。それを

お地藏さまが救ってくださるのです。室町時代の考えをもとに、江戸時代

初めに、このような和讃がつくられたようです。

○さまざまのお地藏さま

◎三大地蔵尊

- ・高勝寺（栃木市・岩船山・生身地藏尊・約 6m）・浄信寺（滋賀県長浜市・6m）・さ げね猿羽根山地蔵堂（山形県舟形町・5.8 c m）

◎三体地藏尊

- ・壬生寺（京都市・縄目地藏）・青蓮寺（三重県名張市・延命）・なわとぎ縄解地藏尊（栃木県壬生町駅下車）

◎三大子育て地藏尊

- ・しょうみょう称名寺（東京・府中市～駅前・毎月 23 日開帳）・こうしょう高勝寺（栃木市・岩船山）・あと一つは諸説あり決定不能 上記二寺の記事にも特定されず

◎石仏・日本一・地藏尊

- ・米泉寺（新潟県三条市・5.3m）

全国のお地藏様ご拝観のおすすめ～

日本一のお地藏様がおられる越谷市の市民です。全国のお地藏様のご拝観をおすすめ申し上げます。

○近江国の平諸道の父が、敵と戦い矢が尽きたとき、地蔵に祈ると、小さな僧が現れ、矢を与えてくれたので、戦いに勝った。僧は敵の矢にあたって消えてしまったが、のちに地蔵に参ると、像の背中に矢が立っていた。

○水銀坑内に生き埋めになった伊勢国飯高郡の下人は、一心に地蔵を念ずると、十余歳ばかりの小さな僧が紙燭をもってあらわれ、下人を救ってくれた。

○備中の修験僧阿清は、病死して地獄におちたが、地蔵があらわれ、阿清が如法の行者であることを地獄の官人に弁明してくれたので、蘇生できた。

○24日に地蔵を念じていた賀茂盛孝は、閻魔の庁に召され、地蔵に救いを求めた。地蔵は冥官に盛孝の助命を乞うたが、冥官は、「衆生の善悪の業は転ずべからず」と拒否した。すると地蔵は、「われ、この男に代わり苦を受けん」と訴え、とうとう盛孝は蘇生することができた。

○源満仲の郎等は、心猛く殺生を業としていたが、あるとき地蔵菩薩像の前で笠をとって礼をした。病死し閻魔王の前に召された郎等は、一生のあいだの罪業を思い、絶望したが、いつぞやの地蔵があらわれ、助けてくれた。

○因幡国国隆寺の別当のかわりに、地蔵像を作る仏師を養った妻帯の法師は、病死して地獄の鬼に捕らえられたが、地蔵が現れ、助けてくれた。

今昔物語集は、作者や正確な成立年などは不明。平安時代の庶民の生活がいきいきと記され、その本朝仏法部 17 巻には地蔵尊のお話が 32 集められ、うち 25 には夢や現実には地蔵尊が「小さな僧」「小さな端嚴とした僧」という姿で現れたことが書かれています。

お地蔵さまのお話 いろいろ

○お地蔵さまの起源 バラモン教のプリティヴィー（地神）の信仰が仏教に組み込まれたか？ インドのサンスクリット語の「地を含蔵して」とか「地中の蔵」の意味と解釈して「地蔵」と訳したかと思われます。

お地蔵さまの前世としては、母が地獄におちたのを、そこまで行って救ってきた女人であるとされています。

○お地蔵さまは、すべての衆生を救いきるまでは如来にならないという誓いを立てて、自ら努力してくださっているといわれています。

○お地蔵さまは、諸仏と違って常に黄泉路よみじを歩いておられ、三途さんずの川にも必ず行かれる。幼い子は悪いことをしていないが、よいこともしていないので、地獄に行ってよいのか、極楽に行ってよいのか、わからない。三途の川の前で、子どもがたくさん、迷っている。幼い子を亡くした母親が地蔵に探してほしいと頼むが、お地蔵さまも、どの子なのか分からない。その子の「よだれかけ」に沁みついた「におい」で、地蔵が連れてきてくださるので、「よだれかけ」を奉納することになるのです。

○埼玉県で最古の木彫りの仏像とされていたのは、10世紀のものという毛呂山やま・桂木寺けいぼくじの伝でん・釈迦如来座像ざざうと、飯能いん・常楽院じょうらくいんの軍荼利明王ぐんだり みょうおう立像りゅうざう。

お地蔵さまの浄山寺

○浄山寺じょうざんは、貞観2年（860）、慈覚大師円仁えんにん開基と伝えられ、中世以前は「慈福寺」という天台宗の寺院。本尊の地蔵菩薩像は岩槻慈恩寺の観世音菩薩像、川口慈林寺の薬師如来像とともに慈覚大師いちぼくさんたい一本三体の作（木の根元・慈恩寺、中木・浄山寺（当初・慈福寺）、梢・慈林寺）と寺伝でいわれる霊仏。

○家康が当寺を訪ね、300石の朱印状を寄進しようとしたとき、当時の住職明山和尚かぶんが過分として辞退。家康は懷中から鼻紙を取り出し、高3石と書

き「献香料」として渡したというのが、有名な「鼻紙朱印状」。

そして野島山浄山寺とし、^{しゅうし}宗旨を曹洞宗に改めることを命じられたのです。

○ほかに、当寺の宝物としては^{おおわにぐち}大鰐口があります。天保12年(1841)に寄進された直径6尺(176cm)、重さ200貫(750kg)のもので、全国でも第1級の大きさだと思われます。

もう一つ、徳川家康の銅像が～

新しい彫刻ではありますが、本堂向かって右側に徳川家康像があります。

これは、家康とのご縁を感じられて立てられたもので日展審査員の田畑 功さん作の銅像です。家康というと、たいていはギョロ眼のでっぱり姿。越谷市民でも、こんなヒトが郷土越谷を造ったとは思いたくないのです。浄山寺の、この銅像のお顔なら市民のどなたでも大満足だろうと思われます。ようやく、市民のイメージに合うお顔が見つかって、ホッ！ 徳川宗家第18代の^{つねなり}徳川恒孝さんも、家康公によく似ているとおっしゃっていたようです。

参考書

○地藏信仰 速水 侑著 はなわ新書 瑞書房刊 2012.2

○地藏菩薩—その源と信仰をさぐる— 望月信成著 学生社刊 1989.

○平安初期彫刻史の研究 久野 健著 吉川弘文館刊 S49.10

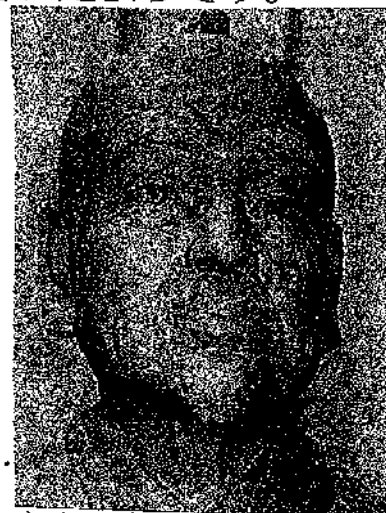
○東寺 秘宝第6巻 佐和隆研著 講談社刊 S44 ○文化誌日本 福島県 講談社刊 s66.9

○名宝日本の美術 第2巻 法隆寺 相賀徹夫編著 小学館刊 S57.2

○文化誌日本 三重県 講談社刊 s59.6

○定本信州の仏像 しなの書房刊 08.8

○越谷市の文化財 越谷市教育委員会編刊 H10.3



笠をかぶる前の家康像(部分)
浄山寺
・日展審査員・田畑 功氏作

○寺伝でも、^{えんにん}円仁がこの地で3体の仏像を作り、そのうちの1体がお地蔵さまであるといわれますし、他にも円仁が関係したという説が多いようです。

○文献などの証拠がない。想像しかありません。～ので、わたくしも想像させていただきました。

○一番の拠りどころは、円仁さんの生まれた場所です。^{しもつけのくに}下野国岩船町（現・栃木市）。ここは、越谷市野島から、ほぼ・まっすぐ北なのです。距離約60km。平安時代のヒトがどれぐらいの速さで歩いたかのデータ



越谷市野島・浄山寺地蔵尊

はありませんが、江戸時代人は老若男女を問わず1日10里（40km）と言われますから、60Kmは1日半。越谷と岩船とは、そういう距離なのです。円仁さんと師匠の^{さいちょう}最澄さんが関東に仏教伝道に歩いた記録はありますし、円仁さん単独の岩船への旅は多々あっただろうとは想像に難くない訳で、そういう折に円仁が伝道の拠点としての越谷にお地蔵さまを据えたということは十分考えられることではありませんか。

円仁さんが京か奈良で詠えた「優しい」「重文になる」「県内最古の仏像になる」お地蔵さまを越谷野島に置いていった～との想像です。